

No	13												
指標名	転倒・転落レベル2以上発生率												
定義	$\frac{\text{(分子)転倒・転落発生数(レベル2以上)}}{\text{(分母)入院延べ日数}}$												
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>当院</th> <th>全国中央値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>0.00013</td> <td>0.00056</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>0.00015</td> <td>0.00054</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>0.00010</td> <td>0.00055</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2015年度、2016年度、2017年度における当院のデータ (全国)2015年度、2016年度、2017年度に実施した病院の中央値 (2018/04/25 時点) ※他院との詳細な比較につきましては「全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業」のページをご参照ください。</p>	年度	当院	全国中央値	2015年度	0.00013	0.00056	2016年度	0.00015	0.00054	2017年度	0.00010	0.00055
年度	当院	全国中央値											
2015年度	0.00013	0.00056											
2016年度	0.00015	0.00054											
2017年度	0.00010	0.00055											
コメント (解説)	<p>転倒・転落レベル2 以上発生率とは、入院患者さんが転落・転倒した場合に検査や処置などが必要となった事象の発生率を表しています。</p> <p>入院時とともに、入院2日目、7日目にアセスメントシートを活用し患者の状況を再評価することで、患者の環境の変化に合わせた適切な時期のアセスメント、対策、介入を行えていることが、転倒・転落レベル2以上発生率の減少につながっていると考えられます。</p> <p>また、多職種でカルテレビューを実施し、現場にその結果をフィードバックしていることも転倒防止につながっています。</p> <p>DVDやポスターなどで転倒防止に関する啓蒙も行っており、患者さん自身の協力が得られていることも影響していると思います。</p>												